

# 市政の主人公は市民

## 平和が いちばん

2015年8月15日  
第 98 号  
平和で豊かな枚方を  
市民みんなで作る会



「アベ政治は許さない！」。戦争法案・原発再稼働・沖縄新基地建設、全ての課題で予断を許さない状況が続きます。できる行動を、いろんな場で声を。(7/18 岡本町公園)

鳥取県知事を務められた片山善博さんは講演で「アメリカの市町村議会の仕事の半分は、本会議や委員会場で市民の意見を聞くことです」と述べています。地方議会では一般市民の発言が保障されていて、市長や議員は市民の意見を聞いて政策判断する仕組みになっている。つまり市民は選挙の時の投票だけでなく、日常的に市政に関与していく権利と義務を有しているのです。この指摘は日本の地方議会が“市政の主人公は市民”とはなっていないことを示しています。(引用は「学びを広げる学校図書館の会」編の講演集より)

枚方市長選挙が行われます。首長選挙で常に問われる基本姿勢は「市民の生命を守るために、国政とどのように向き合うのか」と「市民自治をいかに発展させていくか」の二つです。国政との関わりは「平和と民主主義」の課題でもあります。特に現在国会で審議中の「安保関連法案（戦争法案）」はこの二つが重く問われています。「原発」も同じで“お金か生命か”は

基本の課題です。決して「国において適切に判断される」など傍観者であってはなりません。

そして昨今の国政・地方政治で特徴的なことは「市民自治」とは正反対の「期限付きの独裁」という風潮です。選挙で勝てばその任期内は何でもできる、「反対なら次の選挙で落とせ」という政治姿勢です。私たちの市での「美術館問題」はその典型です。「大切なことはみんなで決める」という民主主義の原則からはずれた市政運営に市民が声を上げ行動に立ち上がっているのは当然です。

私たち「市民の会」は、今後も市政に積極的に関与し“平和で豊かな町”をめざして活動を広げます。その基本は首長と議会による市政の運営を、市民の活動によって“制御”することです。市民による積極的な提言と日常的な監視、そして粘り強い運動によって「市民自治」を具体化し、この枚方市を住み続けたい町に育てていく決意です。

### 投稿

#### 戦争法案絶対反対 大田 幸世

先日、若い元米海兵隊員の話を書く機会があった。新兵訓練で「軍人は、人間以上。軍人以外は、人間以下」と徹底的に洗脳され「親すら人間以下と考えていた」という。二〇〇五年沖縄に赴任した。沖縄は戦争で得た植民地と見ていたので、町でのセクハラもじやれ合いとしか考えていなかった。イラクに行き、初めて自国アメリカが銀行や一部の大企業のために軍事力に頼り、イラク人、沖縄の人そしてアメリカ人にあたえた苦痛に思い至った。暴力を称える文化に同化していた自分を反省した。

「勝手に決めるな」と自分の意志で立ち上がっている。東京八千公前は、若人達にぎっしり埋め尽くされた報道されている。新たなうねりが広がっている。

私達は、現在「戦争法の廃案を求める」署名を集め、地元出身の国会議員にFAX等で「廃案に向けて動いてくのが議員の役目」と働きかけている。「国民の多くが反対していることを強引に決めるアベさんは、ひどすぎる。黙っていることはできない」「イラクの現状は、武力では平和がつくれず、安心して暮らせる社会を破壊しただけではないか」「友人に自衛隊員がいる。憲法九条があるから武器を持ち海外に出されるとは考えていなかった」という声が寄せられている。

九月二十七日が国会会期末だが、さまざまな方法で多くの方と戦争法案を廃案するまで「アベ政治、許さない」の動きを強めたい。大人の責任として。

二人の若者の話がつながらる。高校生も若者も「戦争に行かされるのは自分達」

原発NO



戦争NO

**7月16日 香里ヶ丘中央公園の小グランドのバリケード撤去** 台風接近による安全対策との名目で、少なくとも夏休み終了までは撤去することのこと。地元のお母さん方が、せめて夏休みの間だけでもバリケードの撤去を求めて短期間で 1530 筆の署名を集めた成果だ。市民の声が行政を動かした。

**7月24日 住民監査請求** 美術館建設の見直しを求める 39 名の市民が、「負担付寄附の覚書の破棄と寄附の受け入れを禁じる」ことを求める監査請求を行った。9 月 3 日に請求人による意見陳述が行われる予定。請求は、①受領する美術品、美術館の価値が著しく低いこと、②贈与にともなう負担が過大であること、③都市緑地としての財産的価値を失わせること、④寄附者の便益のためのみ行われる寄附で公共性がないことなど、美術館建設・寄附の受け入れが違法であると主張している。市民の声が凝縮された監査請求、公正な監査を望む。

**7月31日 戦争法案(安全保障関連法案)の廃案を求めて国会行動** 午後からの参議院議員会館での院内集會に参加後、シールズ(学生の自主組織)と大学関係者の呼びかけの国会前抗議行動に参加。夕方から、続々と人が集まり午後 7 時 30 分の開始時間には身動きができないほどの人で歩道が埋まった。「民主主義とは何だ」「民主主義はこれだ」「やつらを通すな」などがコールされる。安倍内閣の憲法破壊、ファシズムを許さない市民の直接民主主義、参加者の熱気を肌で感じた。

**8月1日2日 平和と民主主義をめざす全国交歓会** 「戦争・原発・貧困なくそう - 国際連帯で未来をつくる」とのテーマで開催された。戦争法廃案、辺野古への新基地建設反対、原発再稼働反対など、各地の取り組み交流と方針の討議を行った。安倍内閣の戦争国家作り、民主主義破壊を許さない思い怒りが伝わる。今秋期、戦争法廃案、安倍首相退陣へ向けて枚方から声を上げ続けたい。

7月21日 7月分議員報酬から 226,080 円を大阪法務局へ供託

キャン  
ペーン

## 「政務活動費」は廃止

2回目

◇不正や不明朗な使い方が連日報道されている「政務活動費(政活費)」。枚方市ではどうなっているの? どこで見られるの? 「市議会報」? ネットで? いいえ、市役所に行かなければ見ることはできません。議会事務局に行ってその旨告げると閲覧室に案内され、やっと「政活費」の報告書が見られます。

◆26年度は34人の議員(27年4月の選挙から定数は32人に削減)のうち、手塚たかひろ議員と他1名の二人の議員だけが政活費を受け取っていません。

32人のうち16人が年間84万円(月7万円)を満額使っています。以外の16人は数十円から60数万円まで残して報告しています。その結果、税金から約2500万円が政務活動費として使われているのです。

◆それが何に使われているか見ていきます。それぞれ領収書写しが添付されていて、個人名などの部分に墨塗りがされている以外、その用途は公開されています。

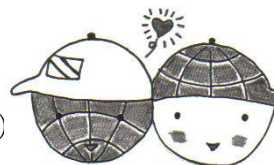
まず目に付くのが「広報費」の多さです。29人が計上しています。これは議員個人が作成した「議会報告」などの印刷費や配布代・郵送代などが含まれています。全額をこの費用に充てた人から5万円まで様々ですが、総計で1500万円になります(政活費での補填は他費目と合わせて一人年84万円まで)。しかし作成されたはずの「議会報告」などの現物が添付されていません。これだけたくさんの議員がそれぞれ「個人報告」を出しているにもかかわらず、市民が目にするのはほんの少数分です。東大阪市では自民党市議団が「広報紙」の作成費用を取消し全額返還している事例もあります。現物を提示するのは当然でしょう。

◆それ以外にも、「交通通信費」でのガソリン代、「調査研究費」、書籍代など首を傾げざるを得ない支出も見受けられます。以下次号で。<文責:

### 平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)  
鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)  
奥村 秀二 (弁護士)  
おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)  
事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)

会員を募集しています  
年額 2000 円です



「会」のシンボルマーク  
塔本 賢一さん作

〒573-1197

枚方市禁野本町

1-5-15-106

市民の広場“ひこばえ”

Tel&Fax072-849-1545

